

EU Indicators

欧州経済指標コメント：4月ユーロ圏消費者物価（速報）

発表日：2018年5月7日（月）

～原油高に助けられた物価安定への軌道～

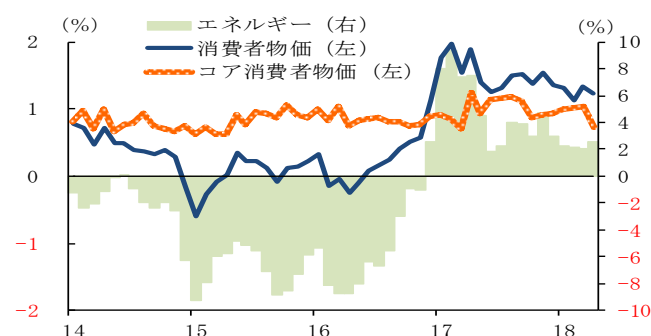
第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 田中 理

03-5221-4527

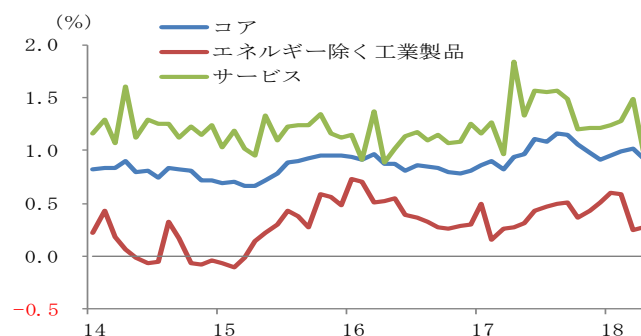
- 3日に発表されたユーロ圏の消費者物価の4月速報値は前年比+1.2%と、前月の同+1.3%から小幅鈍化した。速報段階で入手可能な内訳は、このところの原油価格上昇を背景にエネルギー価格（前月：同+2.0%→今月：同+2.5%）の上昇率が再加速したほか、食料品価格の上昇やたばこ関連の税率引き上げの影響が続いた食料・アルコール飲料・たばこ価格（同+2.1%→同+2.5%）が一段と加速した一方で、コア物価（同+1.0%→同+0.7%）の上昇率が昨年3月以来の水準に大きく鈍化した。
- コア物価の細かい内訳は16日の確報値を待つ必要があるが、昨年のイースター休暇時期のずれにより、今年は航空運賃やパッケージ旅行価格が3月に上振れ、4月に下振れしやすかったことが影響。イースター要因が剥落する5月以降のトレンドを見極めたい。ただ、エネルギーを除く工業製品価格（同+0.2%→同+0.3%）の動きもここ2ヶ月鈍く、イースター要因を除いてもコア物価の足取りは緩慢。ここ最近まで続いたユーロ高の影響が下押しに働いている可能性がある。
- 原油価格の再上昇とイースター要因の剥落により、ヘッドラインのインフレ率は夏場にかけてECBが中期的な物価安定と定義する2%近くに加速することが予想される。原油高の二次的波及効果や今年に入ってやや加速する賃上げの動きを受け、コア物価も今後は徐々に上昇率を高める可能性がある。購買力低下につながる原油高に支えられた物価の底入れではあるが、向こう数ヶ月の間に今後の金融政策の正常化経路について判断が必要なECBにとっては“渡りに船”となりそうだ。

■ユーロ圏：消費者物価（前年比）



注：コア物価は食料・たばこ・アルコール・エネルギー除く
出所：Eurostat

■ユーロ圏：コア消費者物価（前年比）



注：コア物価は食料・たばこ・アルコール・エネルギー除く
出所：Eurostat

■ユーロ圏の消費者物価（%）

	2017				2018									
	2Q	3Q	4Q	1Q	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
消費者物価（前期比）	0.1	0.2	0.4	0.5	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.3	0.0	0.1	0.1
（前年比）	1.5	1.4	1.4	1.3	1.3	1.5	1.5	1.4	1.5	1.4	1.3	1.1	1.3	1.2
コア消費者物価（前期比）	1.1	1.2	0.9	1.0	1.2	1.2	1.1	0.9	0.9	0.9	1.0	1.0	1.0	0.7
食料/アルコール/たばこ（前年比）	1.5	1.6	2.2	1.7	1.4	1.4	1.9	2.3	2.2	2.1	1.9	1.0	2.1	2.5
食料（前年比）	1.3	1.4	2.2	1.2	1.1	1.2	1.8	2.4	2.2	1.9	1.7	0.6	1.5	—
アルコール（前年比）	0.6	0.7	0.7	1.6	0.8	0.7	0.6	0.7	0.6	0.9	1.5	1.5	1.8	—
たばこ（前年比）	3.2	3.2	3.7	4.7	3.2	3.3	3.2	3.3	3.7	4.0	4.0	3.8	6.3	—
エネルギー（前年比）	4.6	3.4	3.5	2.1	2.2	4.0	3.9	3.0	4.7	2.9	2.2	2.1	2.0	2.5

注：消費者物価の前期比は季節調整後。コア消費者物価は食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除く。出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。